

自由だ。



ことばは、

2018年1月12日発売

第七版

2018年1月12日刊行

愛情と信頼に込めて

『広辞苑』は一九五五年に初版を刊行、それから六〇年余が経ちました。この六〇年の間、改訂を重ねてまいりましたが、この度、一〇年ぶりの改訂新版となる第七版を刊行する運びとなりました。『広辞苑』は長い年月を経て、読者の皆様に愛され、信頼を厚くし、いまや「国語+百科」辞典の最高峰、「国民的辞典」と言われるまでに成長しました。

日本語の語彙と表現は、古代から現代に至るまで、日本語を使う無数の人々によって大きく豊かに育てられてきました。この日本語という沃野を耕してきたのは人々の自由な心です。言葉は、自由な発想から芽吹き、人々の手で自由に選ばとられ、愛され、そして縦横に駆使されることによって、広がり、深められ、定着していきます。

二〇一七年五月に亡くなられた作家の杉本苑子さんは、随想『春風秋雨』で、「葬式も墓も無用、骨は海にでも撒いてしまっしてほしい」と書き、続けて、文学者の墓の自分の名の下に、

「使い古した『広辞苑』を一冊、埋めてくれ」と遺言した、と記しておられます。

言葉を頼りに作品を紡ぎ出す作家が、手元の『広辞苑』を何度も引きつつ原稿用紙に向かう姿が目に見えます。あえて『広辞苑』と言われたことに、杉本さんの強い愛情と信頼を感じます。



「辞苑」

『広辞苑』の前身、新村出先生が「普遍的にしてかつ軽便な中型国語辞書」として編纂され、1935年(昭和10)に博文館から刊行された。

第一版

1955年5月25日

新村出編「辞苑」を全面的に改訂・増補して刊行。編集作業に七年余の年月を費やし、「広辞苑」と名付けられた。装丁は洋画家安井曾太郎の手になる。

第二版

1960年5月16日

諸科学の最新成果を集約し、一四年を要し刊行した改訂版。七年後には小改訂を施して「補訂版」として刊行、このとき初めて「机上版」を刊行。

第三版

1983年12月6日

一四年ぶりの大規模な改訂。二〇〇頁以上の増加。八七年には、データを一枚のディスクに収め、パソコンで引けるようにしたCD・ROM版を刊行。

第四版

1991年11月15日

目まぐるしい社会変動のなか、言葉の変化も激しく、旧版から八年目の全面改訂。一九二頁の増加でも厚さが変わらないように、さらに薄く軽い上質の辞典用紙を開発。

第五版

1998年11月11日

七年ぶりの大改訂。CD・ROM版も同時刊行した。二〇〇一年には携帯電話での利用が可能に。相前後して電子辞書が急成長し、「広辞苑」活用の幅がひろがる。

第六版

2008年1月11日

二一世紀に入って初めての全面的な大改訂。「漢字・難読語一覧」「アルファベット略語」などを収めた別冊付録を付す。机上版は利用の便を考えた二冊とした。

◆第七版刊行にあたって

こうした愛情と信頼に応えるため、『広辞苑』は、たゆむことなく言葉に向き合い、表現を磨き続けてきました。『広辞苑』の辞典としての特長は、その語釈が簡潔かつ的確であることに尽きます。これこそが、長くなりがちで要点をつかみにくいインターネット上の表現との決定的な違いです。

激変する世界にあつて意味を見失った言葉の氾濫する今日、ますます求められるたしかな言葉。人は言葉によって自分自身を知り、他者を知り、生きる勇氣と誇りを手にすることが出来る。言葉は、人を自由にするのです。

第六版から一〇年、さらに磨きをかけた第七版が誕生します。皆さまの一層のご支持ご愛用を願ってやみません。



10年ぶりの大改訂. 充実の最新版, 満を持して登場

各界第一線の専門家が執筆

第六版に収録されている項目を分野ごとに抽出し、各界の専門家が全面的に校閲。文学・歴史から物理学・医学、美術・音楽に武芸・茶道、スポーツ・サブカルチャーまで、学問の研究の進展や最新の動向を反映し、また旧版の不備を補うなどして、より正確で簡潔な解説に改めました。一方、現代生活や各分野の理解に必須の言葉を新たに選定、執筆していただいています。

言葉の変化、意味の違いをみつめる

世の中の激しい動きにともない、言葉の意味も変化していきます。新しく生じた意味は、その定着度を吟味しながら過不足なく加えました。また、言葉を発信する機会が増え、それぞれの言葉の意味を的確に把握し表現したいというニーズも増えています。動詞・形容詞を中心に類義語の意味の違いが分かる語釈を追求しました。

日本語の基礎を見直す

言葉の根本の意味をきちんととらえた上で、歴史的な意味変化に沿って語釈を与えるのが『広辞苑』の流儀。その基本に立ち返り、『万葉集』『源氏物語』など古典から引用した用例を総点検しました。その結果、基礎語の語釈を全面的に書き換えたり、見出しの形を改めたりした例も少なくありません。その他の古語項目もさらに充実させました。



新たに一万項目を追加

第六版刊行後に収集した言葉に加えて、旧版までは採用しなかった言葉もあらためて検討し、日本語として定着した語、または定着すると考えられる言葉を厳選。新加項目は約一万に達しました。ネットで何でも検索できる時代だからこそ、言葉の使用場面を越えた中心的な意味を一読して把握できるように、余分な言葉をそぎ落とし洗練した語釈を付しました。

用紙・造本の質をさらに向上

第七版の本冊は第六版よりも一四〇ページ増加、しかし厚さは変わりません。製本機械の限界である八cmに収まるように、さらに薄い紙を開発した結果です。しかも、手に吸い付くような、めくりやすい「ぬめり感」は保持したまま。これを高度な印刷・製本技術で一冊にまとめています。大型の「机上版」は、多くの方からご好評をいただいている二分冊です。

特に力を入れた分野の例はこちら

▶ 明治以降の近代の用例を大幅に増補。文学作品のほか、新聞記事で使われた例も多く収録。

▶ 地震・火山噴火・豪雨などによる自然災害や地球への関心の高まりに応じて、地球科学・気象・海洋関連語を充実。

▶ 宇宙誕生から人類誕生までの研究の進展を反映。

▶ インターネットやSNSの普及により、日常生活で多用されるようになったIT用語・ネット用語を重視。

▶ 医学・薬剤関係の言葉が検索される機会が増えていることを受けて、病院や薬局でよく耳にする用語を増補。

▶ 遺伝子解析にもとづいた生物の系統関係の見直しに対応。動物植物の分類は大幅に見直し、植物では伝統的な旧体系での分類も併記。

▶ 世界遺産、伝統的建造物群保存地区、各地の城郭など、史跡や旅行関係の地名を充実。

▶ 料理・スポーツ・ポピュラー音楽・アニメなど日ごろ身近な分野も重視し、大幅に項目を増補。

新村 出編

広辞苑

第七版

岩波書店

変わらぬ信頼と、期待に込めて

広辞苑によれば……



©Kazuhiko Washio

池澤夏樹

(小説家・詩人・翻訳家)

家族との会話でも友人との議論でも、一つの言葉の意味を確定しないと話が先へ進まないことがある。「広辞苑によれば……」という定型表現はこの事態を指している。世に辞書や事典は多いが、広辞苑は一語ずつの説明の分量と全語数のバランスが良い。だからこそ二十数万語を入れてしかも一冊にまとめることができる。現代の消費社会は勝手に新語を作りたがるけれど、本当に長く使われる語であるか否かの判定はむずかしい。そのためにある種の権威が要ると考えれば、広辞苑は十分な権威を備えている。

広辞苑で「ぬばたま」と出会う



青柳正規

(美術史・東京大学名誉教授)

山中湖にはヒオウギが自生している。剣状の葉が扇のように広がり、黄赤色の花をつけた花茎とともに凜としたすがたで雑草の中なかからたちあがっている。日当たりのよい、しかし湿気を含む窪地のようなところに繁殖するようである。広辞苑で見るとその種子は「ぬばたま」もしくは「うばたま」といい、黒や夕暮れの枕詞にもなるという。いつか形容詞として使いたいが堆黒のような漆黒そのものにしかふさわしくなさそうで、なかなか機会がない。

頼もしい「不易」の後ろ盾



田中優子

(法政大学総長)

『広辞苑』をはじめとする国語辞典は頻繁に引いている。漢字に少しでも不安があれば引き、意味に疑問が生じれば引き、ニュアンスにあまりない点があれば引き。確認できればよし。新しい知識を得る場合もある。たとえば「棹さす」という言葉を見てみる。流れに逆らう意味に使う人もいて、ほんとかな？と思う。ああやっぱり、逆に時流に乗る意味だった。「情に棹させば流される」のであるから、流れに乗るのだ。国語辞典は不易流行における不易の後ろ盾なのである。頼もしい。

文化を支える言葉と辞書の役割



大隅良典

(分子生物学・東京工業大学名誉教授)

もう五〇年以上も前の話になるが、大学入学のお祝いに兄から広辞苑をプレゼントしてもらった。以来自宅と研究室の書棚には広辞苑が並んでいる。その国の文化を支えているのは言葉であり、時間を掛けて編纂され、ずっしりと重い広辞苑の役割は大変大きい。だが、最近自分でページを繰る作業はめっきり減って、手軽にパソコンに手を伸ばしていることが多くなっている。私も含め現代人が、どのように余裕をもって主体的に生きて行くのかが、問われているようにも感じている。

マイブームと広辞苑



みうらじゅん

(エッセイスト・イラストレーター)

「ない」カテゴリのネーミングを考えるのが僕の仕事と勝手に思い込んでいる。「マイブーム」や「ゆるキャラ」もその作例で、相反した単語をくっ付けた。ネーミングが出来る、そもそも「ない」ものが「ある」ように思えてきて、僕はそれに関するものを集め出す。無駄な努力と無駄な量がモットー。世間はそれを見てようやく僕の思った「ない仕事」に気付く。流布するネーミングはたまたまで何百もの不発が僕の頭に未だ眠っているのである。

今年の一頁



柳家喬太郎

(落語家)

調べ物をするのに、ネットも便利には違いないけど、辞書を手に取り、頁をめくり、言葉を探す、あの感覚はまた格別です。我々落語家も断を覚えるとき、ただ音源を聴いたり本を読んだりするだけよりも、やはり先輩と面と向かって、直に稽古をつけて頂いた方が、ずっと体に入ってきます。なんだか、それと似ている気がするのです。あたらしい広辞苑を指でめくって、今年の喬太郎の落語を産み出す事が、苦しいながらも、我ながら楽しみなのです。

頼りになる『広辞苑』



安彦良和

(漫画家・アニメ監督)

もう七〇年ちかくも日本人をやってきているのに、母国語しか知らない私の日本語はどうも覚えられない。それで辞書に頼る。辞書は専ら広辞苑だ。ただ、広辞苑は大きくて重いから難儀をしていたら知人から電子辞書を教えられた。それで助かって、広辞苑は更に身近になり、だいたいいつも、左手を伸ばせば届く所に居てくれる。心強い限りだ。

抜群に面白い「座右の書」



出口治明

(ライフネット生命保険株式会社創業者)

新人の頃仕事を早く終えて本を読んでいると上司に叱られた。しかし辞典を読んでいると何も言われなかった。そこで図書室から辞典類を順次借りてきて適当にページを開けては読んでいたが、広辞苑が抜群に面白かった。単なる辞書の域を超えてコンパクトな百科事典となっていたからだ。「逆引き」が発売されたときは驚愕したが、また、これが引き慣れてくると無類に楽しい。広辞苑は、この五〇年、迷ったらず引く僕の「座右の書」である。

新加項目 10000より

広く使われ日常語として定着した言葉、今という時代を読み解くために将来不可欠と考えられる言葉、社会の状況を顕著に映し出す事項や人々……。新しく加える項目は、慎重に検討を重ねて選びぬきました。

21世紀の今を映す 新たに追加された項目

現代語

- 朝トラ
- 安全神話
- いらっと
- 上から目線
- お姫様抱っこ
- 価格帯
- 可視化
- がつつり
- 加齢臭
- 口ばく
- 小悪魔
- ごち
- 小腹が空く
- 婚活
- 雑味
- 直箸
- 自撮り
- 勝負服
- 白物家電
- 戦力外
- 卒乳
- 立ち位置
- ちやらい
- 名ばかり
- 乗り乗り
- 万人受け
- 美品
- 惚れ直す
- まかない料理
- 無茶振り

カタカナ語

- アプリ
- イップス
- エコバッグ
- カルチャースクール
- キーマカレー
- キャリアバッグ
- クールビス
- クラウド
- グランドデザイン
- クリアファイル
- コインパーキング
- サブライズ
- スピノフ
- スマホ
- スルー
- チュロス
- ツイート
- デトックス
- ドクターヘリ
- ネイルサロン
- ハニートラップ
- バリスタ
- パワースポット
- ビッグマウス
- フードコート
- ブローカー
- メアド
- リスベクト
- リマインド
- レジエンド

人文・社会

- アラブの春
- イスラム国家
- ウイキリークス
- LCC
- LGBT
- 大阪取引所
- 沖縄返還密約
- オスプレイ
- 革新自治体
- 強制起訴
- 限界集落
- 健康寿命
- 再帰性
- 殺処分
- 指定難病
- 消費者庁
- 戦争遺跡
- 庭前の柏樹子
- ねじれ国会
- 八角墳
- ハラーム
- 東日本大震災
- ビットコイン
- ブラック企業
- ふるさと納税
- 法テラス
- マタテイー・ハラスメント
- 民間軍事会社
- 雇止め
- 四つの口

科学・自然

- iPS細胞
- アメリカン・ショートヘア
- AED
- エビジェネティクス
- 化学物質過敏症
- 顎関節症
- 熊本地震
- ゲノム編集
- ゲリラ豪雨
- 再生医療
- シエール・ガス
- 腫瘍マーカー
- 燭台大莖蕨
- 新型インフルエンザ
- 真正双子葉植物
- 鈴木カッブリング
- スタチン
- スノーボール・アース
- スピノサウルス
- ディーブ・ラーニング
- ニホニウム
- ネオジム磁石
- 年縞
- はやぶさ
- バンデミック
- ブレイン宇宙論
- ミラー・ニューロン
- ラミダス猿人
- 量子暗号
- ロコモティブ症候群

人名

- 赤塚不二夫
- 植田正治
- 宇沢弘文
- 梅棹忠夫
- 永六輔
- 加藤周一
- 川上哲治
- 大鵬
- 高倉健
- 立川談志
- つかこうへい
- 鶴見和子
- 勅使河原宏
- 土井たか子
- 土光敏夫
- 戸塚洋二
- 中内功
- 南部陽一郎
- 原節子
- 文在寅
- 劉曉波
- アレクシエーヴィチ
- オバマ
- (ピエール) カルダン
- (マイケル) ジャクソン
- (ステイヴ) ジョブズ
- スピルバーグ
- チャストラフスカ
- (ホプ) デイラン
- ベッケンバウアー

地名

- 美瑛
- 上北
- 浜通り
- 三陸復興国立公園
- 渡良瀬遊水地
- 白岡
- 富岡製糸場
- 東京スカイツリー
- 神楽坂
- 西之島
- 伊根
- 熊野古道
- しまなみ海道
- 軍艦島
- 口永良部島
- 識名園
- 今帰仁城(なきじんタスク)
- 渡嘉敷島
- 新北
- 西沙群島
- ハロン
- 金角湾
- サマワ
- ヨーク
- コッツウォルズ
- アマルフィ
- 黄金の環
- デナリ
- ケイマン諸島
- 南スーダン

確認してみませんか?
本来の意味 広辞苑によれば……

「姑息な手段」ってどんな手段?

こそく「姑息」(姑)はしばらくの意①一時のまにあわせ。その場のがれ。漱石、彼岸過迄「其日其日を」に送つてある様な気がして。「一な手段」(因循)②俗に卑怯なさま。「一な奴」

「私では役不足です」は謙遜?

やくぶこそく「役不足」①俳優などが、自分に割り当てられた役に対して不満を抱くこと。②その人の力量に比べて、役目が軽すぎることを。「一の感がある」(誤って、力不足の意に用いることがある)。

「おざなり」と「なおざり」、似ていますが……

おざなり「御座なり」当座をつくらうこと。その場のがれにいいかげんに物事をするさま。「一の計画」(「一にする」)を言う。

なおざり「等閑」①あまり注意を払わないさま。いゝ加減にするさま。かりそめ。おろそか。ゆるがせ。源若菜下「一のすさびと、はじめより心をとめぬ人だに」。「規則を」にする「一な態度」②あつさりしていること。徒然草「よき人は、興するさまも一なり」

「壮絶な人生」ってよく聞きますが……

そうせつ「壮絶」はなほだ勇壮なこと。極めて壮烈なこと。「一な戦い」

「さわりだけ聞かせる」なら作品のどの部分?

さわり「触り」①さわること。下でふれること。また、触れた感じ。②他の節にさわってゐる意。義太夫節の中に他の音曲の旋律を取り入れた箇所。曲中で目立つ箇所になる。③転じて、邦楽の各曲中の最大の聞かせ所。「とどろき」の部分が多いため。④さらに転じて、一般的に話や物語などの要点、または最も興味を引く部分。「一だけ聞かせる」

「噴飯もの」はどういうことについて言いますか?

ふんはん「噴飯」おかしくてたまたま、口の中の飯をふき出すこと。ふきだして笑うこと。「一もの」

「そろそろ潮時かな」ってセリフを聞くけど……

しおとどろき「潮時」①潮水のさしひきする時刻。②ある事をするための、ちょうどよい時期。好機。時機。「一を見て辞去する」

日本語の足もとを見すえ、日本語の将来を展望する

基礎語の 意味を的確に

日本語の基礎的な言葉の意味を分析しなおし、類義語(似た意味の言葉)との意味もすっきり分かるようにしました。

第六版

さする【摩る】(他五)軽くこする。平治「こ打て、かしこ！れとて。」「冷えた体をーする」

第七版

さする【摩る】(他五)痛みや寒さをやわらげるために(手)のひらを軽く押し当てて、前後または左右に何度か動かす。平治「こ打て、かしこ！れとて。」「冷えた体をーする」

な・でる

なてる【撫でる】(他下)「因なづ下」ものの表面を心をこめてさする意。①手のひらなどでやさしくさする。万「わが母の袖持ちしでてわが故に泣きし心を忘れぬかも。平家五よに暖かにかうばしき御手をもつてーでくし給ふ。」「子供の頭をーでる」……

なてる【撫でる】(他下)「因なづ下」ものの表面を心をこめてさする意。①手のひらなどでやさしく触り、形に添って一度または何度か動かす。万「わが母の袖もちしでて我が故に泣きし心を忘れぬかも。平家五よに暖かにかうばしき御手をもつてーでくし給ふ。子供の頭をーでる」……

お・かあさん【御母さん】(江戸末期、上方の中流以上の家庭の子女の語。明治末期の国定教科書に使われて以後一般に広まった)①子供がその母を呼ぶ語。またその母を指す語。「ーとて」「ーの靴」②子供以外の者が(う)その子供の母を呼ぶ語。また、夫が子供の母である妻を呼ぶ語。「ーにも見ってもらってね」③(御義母さん)「お義母さん」とも書く④子供がその義母を呼ぶ語。またその義母を指す語。⑤子供以外の者が(う)その義母を呼ぶ語。⑥母。母親。「ーの役目」⑦母と定めて、また母代りに慕い頼る人。「寮のー」⑧広く、大人の女性に呼びかけるときに使う語。「この店のーですか」そのー魚が安いよー

お・かあさん【御母さん】(江戸末期、上方の中流以上の家庭の子女の語。明治末期の国定教科書に使われて以後一般に広まった)①子供がその母を呼ぶ語。またその母を指す語。「ーとて」「ーの靴」②子供以外の者が(う)その子供の母を呼ぶ語。また、夫が子供の母である妻を呼ぶ語。「ーにも見ってもらってね」③(御義母さん)「お義母さん」とも書く④子供がその義母を呼ぶ語。またその義母を指す語。⑤子供以外の者が(う)その義母を呼ぶ語。⑥母。母親。「ーの役目」⑦母と定めて、また母代りに慕い頼る人。「寮のー」⑧広く、大人の女性に呼びかけるときに使う語。「この店のーですか」そのー魚が安いよー

こ・す・る

こする【擦る】(他五)①おしつけて摩擦する。すりみがく。漱石「三四郎」麻でゐた男がむつくり起きて眼をーりながら下りて行つた」……

こする【擦る】(他五)①おしつけて摩擦する。すりみがく。漱石「三四郎」麻でゐた男がむつくり起きて眼をーりながら下りて行つた」……

ぬる・い

ぬる【微温い】(形)ぬる・し(ク)①少しあたたかい。なまあたかい(液体が)十分な熱さではない。万「六琴酒を押垂小野ゆ出づる水ーくは出でず寒水袋の「ー」風呂」……

ぬる【微温い】(形)ぬる・し(ク)①少しあたたかい。冷たさが足りない。十分・適度な温度に達していない。万「六琴酒を押垂小野ゆ出づる水ーくは出でず寒水袋の「ー」風呂」……

ぶる・ぶる

ぶる【ぶる】①モーターなどの機械類が小刻みに振動する音。また、そのさま。「エンジンがーと動き出す」②体が生理的に震えるさま。「こわくてー震える」③小刻みに動かしたり揺れたりするさま。「ーと首を振って否定する」「顔をー洗う」

ぶる【ぶる】①モーターなどの機械類が小刻みに振動する音。また、そのさま。「エンジンがーと動き出す」②体が生理的に震えるさま。「こわくてー震える」③小刻みに動かしたり揺れたりするさま。「ーと首を振って否定する」「顔をー洗う」

なす・る

なす【擦る】(他五)①すりつける。ぬりつける。②責任または罪を他人に負わせる。転嫁する。「罪を人へー」

なす【擦る】(他五)①すりつける。ぬりつける。②責任または罪を他人に負わせる。転嫁する。「罪を人へー」

新しい 語義を追加

昔からある言葉でも、時代とともに意味が広がることがあります。たとえばこんな言葉に新しい意味が加わりました。

はじける【弾ける】(自下)「因はじく(下)」①裂けて開く。成熟して割れる。はせる。「豆のさやがーける」②笑い声がーける③羽目をはずして浮かれる。「今日は思いっきりーける」

はだ・いろ【肌色】①はだのいろ。②人の肌のような色。やや赤みをよぶ淡茶色。うすだいたい。▽人種により肌の色が異なるとして絵具などの色名には近年用いない。③器物などの地肌の色。

リセット【リセット】①機械・装置などを再び始動の状態に戻すこと。②新たに始めるために、もとの状態に戻すこと。「リセットをーする」

えんじょう【炎上】(全クはエンジンウとも)①火が燃え上がること。特に、大きな建築物が火事で燃えること。平家「其のころ善光寺の由聞あり。日葡「エンシャウ」タンカーがーする」②インターネット上で、記事などに対して非難や中傷が多数届くこと。

しみん【市民権】①droit de cité; droit de citoyenneté; citizenship(市民としての行動・思想・財産の自由が保障され、居住する地域・国家の政治に参加することのできる権利。②比喩的に、人々の間で広く認められ定着すること。「ーを得た新語」

くに・ます【国鱒】サケ科の淡水産硬骨魚。ベニザケと同種の別亜種。原産地の秋田県田沢湖では、湖に酸性河川水が流入し一九四〇年代に絶滅。絶滅前に山梨県西瀬に放流されたものが二〇一〇年に発見された。キノシリマス。

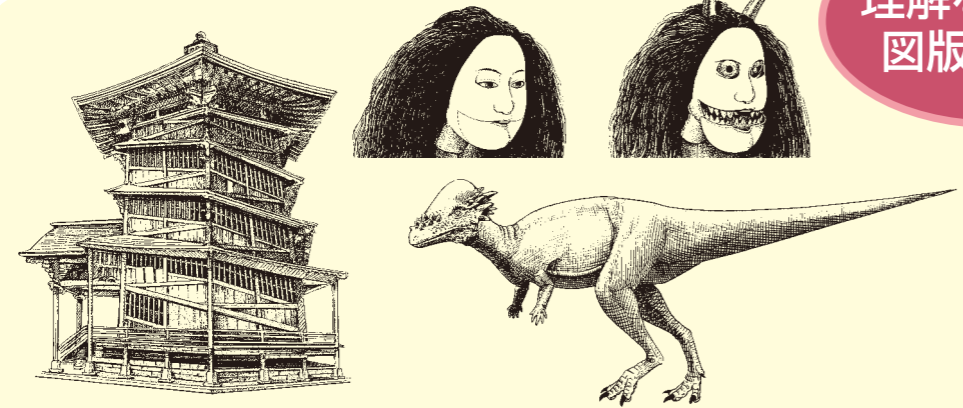
社会が変われば 解説も変わる

第六版刊行からの10年間で世の中が大きく変わりました。それともなって辞典の解説もアップデートしています。

こくへりつ【国立】国が設立し管理していること。……
つかん【洋画】「国立西洋美術館」国立美術館の一つ。西洋の絵画・彫刻を中心として収集・展示する。一九五一年、講和条約締結を契機に、フランス政府管理下にあった松方コレクションが返還され、五九年東京都上野公園内に開設。ル・コルビュジエ設計の本館は世界遺産。

理解を助ける 図版も増加

写真以上に、その事物の特徴を抽象化して分かりやすく示すことができるのが線画です。ある図版は描き直し、ある図版は新たに追加しました。



こんなに変わった!?

語義の変遷

例えば「パンダ」

よこの項目では……

二版で初出

パンダ(Panda)もとネパール語(食肉目の獣。体の大きさはクマに類似し体重一五〇kg前後。毛色は白黒に明確に分かれ、中国四川省・甘肅省付近の高山地帯の原始竹林に棲息。笹や竹の葉を主食。ジャイアント・パンダ。中国名、大熊貓。②小パンダ。大きさはアナグマくらいで、赤褐色。尾は長い房状をなし、輪状斑がある。分布地域は大パンダより広く、中国東南部からアッサム・ヒマラヤ東部にまで及ぶ。レッサー・パンダ。

★大パンダと小パンダと言われ、しかも狭義には小パンダがメイン。共にチベット付近の高山に住んでいます。

二版補訂版では

パンダ(Panda)もとネパール語(食肉目の珍獣。①大パンダ。形態はクマに類似し体重一五〇kg前後。毛色は白黒の明確な染め分けて、中国四川省・甘肅省付近の高山地帯の原始竹林に棲息。笹や竹の葉を主食。ジャイアント・パンダ。中国名、大熊貓。②小パンダ。大きさはアナグマ位で、褐色。尾は長い房状をなし、輪状斑がある。分布地域は大パンダより広く、中国東南部からアッサム・ヒマラヤ東部にまで及ぶ。レッサー・パンダ。

★この二つに分かれました。レッサー・パンダという語も出てきました。

三版

パンダ(Panda)もとネパール語(食肉目の獣。①大パンダ。形態はクマに類似し体重一五〇kg前後。毛色は白黒に明確に分かれ、中国四川省・甘肅省付近の高山地帯の原始竹林に棲息。笹や竹の葉を主食。ジャイアント・パンダ。中国名、大熊貓。②小パンダ。大きさはアナグマくらいで、赤褐色。尾は長い房状をなし、輪状斑がある。分布地域は大パンダより広く、中国東南部からアッサム・ヒマラヤ東部にまで及ぶ。レッサー・パンダ。

★「珍獣」ではなくなりました。

四版から

パンダ(Panda)ジャイアント・パンダとアライグマ科のレッサー・パンダの総称。

★ジャイアント・パンダとレッサー・パンダが独立した項目となりました。

六版では

パンダ(Panda)ジャイアント・パンダとレッサー・パンダの総称。普通、ジャイアント・パンダを指す。

★「パンダ」が狭義には「ジャイアント・パンダ」を指すようになりました。

七版

パンダ(Panda)「ネパール語で「竹を食うもの」の意から近縁と考えられたジャイアント・パンダとレッサー・パンダの総称。普通、ジャイアント・パンダを指す。

その他にも、版を重ねるごとに変わってきた見出しや解説の数々……

●「サッカー」は、初版では「ア式蹴球」で解説されており、「サッカー」は「ア式蹴球」への参照用の見出しでした。

●「バレンタイン・デー」は第二版から掲載されていますが、チヨコレットに関する記述が加わったのは第六版から。

●当初は東海道新幹線だけだった「新幹線」は、開通した路線が増えるたびに『広辞苑』の記述も次々と変化。第四版では「国鉄」から「JR」になったという変更も。

●「ベンギン」は、項目としては初版からありますが、第七版ではアデリ、エンペラー、キング、フンボルト、イワトビなど各種を項目として立てました。句作をなされる方にご重宝いただいている「季語」マーク。これを初めて付けるようになったのは第四版で、その後も少しずつ増やしています。

引きやすさ、分かりやすさもこんなに進化

初版をご愛用の方へ

初版では、「おおかみ(狼)」は「おおかみ」という仮名見出しで掲載しています。「おおかみ」も「おうさま(王様)」も最初の「オー」の音は同じなので、同じように引けるようにとの考えによるものでした。今では学校で習う「現代仮名遣い」がすっかり定着したため、「おおかみ」が見出し表記となっています。

おう・かみ(狼) 食肉目いぬ科の獣。性猛悪で深山にすみ、夜間群をなして徘徊、人畜を害し、吠声遠く響く。形は和犬に似て瘠せ、耳は小さく、口は大きく、全身褐色もしくは赤褐色。いくつかの種類あり、ヨーロッパ・朝鮮産のものをチウセンオオカミまたはヌクテという。日本のいわゆる「狼」はヤマイヌである。おおくちのまがみ。一はじき「狼弾」埋

二版・二版補訂版をご愛用の方へ

二版までは、動詞は文語形が主項目になっています。つまり「上げる」ではなく「上ぐ」、「満ちる」ではなく「満つ」に意味が書いてあり、「上げる」「満ちる」は参照用の見出しです。文語形を思いつかなければ、引く手間が二度になってしまいます。今はもちろん「上げる」「満ちる」に意味が記述されています。

あぐ「上ぐ・揚ぐ・挙ぐ」他「下から上へ一気にものを移す。低い所から高い所へもってゆく。①上へやる。のぼせる。竹取「燕はいかなる時にか子産むと知りて人をばいぐべき」。天草本平家「源氏の旗をいぐるかと疑ひ。日葡「ハタアケル」②手に持って高くする。持ち(さし)あげる。古今雑体は

三版をご愛用の方へ

「じ」と「ぢ」、「ず」と「づ」は現代の日本語では同じ発音です。三版までは、それらをすべて「じ」「ず」で引けるようにと考え、「鼻血」は「はなじ」、「三日月」は「みかづき」を見出しとし、そこを引くと「はなぢ」「みかづき」という仮名遣いがかかる仕組みになっていました。今は、現代仮名遣いの「はなぢ」「みかづき」が見出しになっています。

四版をご愛用の方へ

「明ける」「開ける」「空ける」など同訓の漢字の使い分けは迷うものです。四版までは語義番号の下に《》で大きな書き分けを示していましたが、五版からは項目末尾に「◇」でコラム的な解説を設けています。また、日常的に使われるアルファベット略語が急増しています。五版からは付録にその一覧を付け、現在は別冊化してさらに充実しています。

五版をご愛用の方へ

解説文を見ると「変る」「落す」などという送り仮名が目につきませんか。内閣告示「送り仮名の付け方」によれば、「変わる」「落とす(本則)」、「変る」「落す(許容)のどちらも間違いではありませんが、学校で習うのは「変わる」「落とす」。「許容」の送り仮名に違和感を覚える方が増えたので、第六版からは「本則」に変更しました。

2018年 **1月12日** 全国一斉発売



普通版 **完成記念特別価格**

本体 **8500円**

(提供期限以降の価格 本体9000円)

菊判・クロス装・上製函入・3216頁・
別冊付録424頁 ISBN 978-4-00-080131-7

机上版 **完成記念特別価格**

本体 **13,000円**

(提供期限以降の価格 本体14,000円)

B5判・クロス装・上製函入(本文2分冊)・
3216頁・別冊付録424頁
ISBN 978-4-00-080132-4

特別価格提供期限
2018年6月30日

*小社出庫日

予約特典

三浦しをんさんによる、
『広辞苑探訪記』

小冊子
(文庫判)

「広辞苑をつくるひと」

三浦しをんさん(小説『舟を編む』で2012年本屋大賞を受賞)の、『広辞苑第七版』製作の現場を訪ね歩いたルポエッセイを、ご予約くださった方限定でプレゼントします。訪問先は、国立国語研究所、大日本印刷株式会社の秀英体開発部、古生物学者とイラストレーターのコンビ、株式会社加藤製函所、牧製本印刷株式会社、熱き仕事人たちを、温かく見つめ描いた入魂の作。書下ろし。



三浦しをん氏(撮影/松藤浩之)

※予約特典は、ご購入時に書店店頭にてお受け取りください。

●お取り扱いは 〈購入申込書〉は裏面にあります。お近くの小売書店にご注文ください。

2017.10



岩波書店

〒101-8002 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5
電話03(5210)4000(案内)
http://www.iwanami.co.jp/
[定価は表示価格+税]